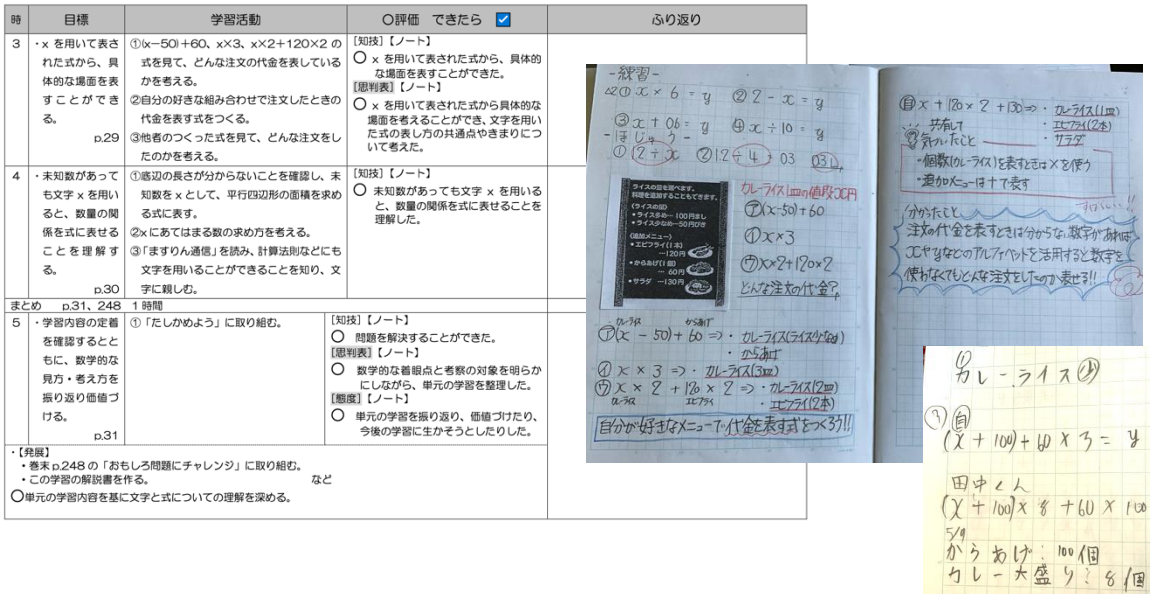
6年	算数	「文字と式」 4時間	概要	学習ナビ、領域による適・不適、学習環境、メタ認知	適　○
手立て	・自分に合った学習環境を選択できるようにする。少人数教室（少人数担当が常駐）＝人に聞いたり話し合ったりする場所、各教室（各担任は各学級児童を担当）＝自由 ・教科書に沿って学習する際に使用できるプリントや問題プリントを開始時に全て準備（少人数担当）、自由に使用できるよう廊下に置いておく ・教師側の意図通りの教室使用にならなかったため、少人数教室＝先生に聞いたり答えを確認したりする場所、各教室は一人で進める場所と話し合いながら進める場所に棲み分け変更 ・ノートを提出させ、評価して返却 ・巡回して見守り、見取り		児童の様子	・初めから友達と集まって始めたグループは集中に欠けた。 ・１回目から問題プリントを持っていく児童が数人いたが、２回目はなし。順序が適当でなかったことに気付いたと言える。 ・プリントの減り具合は 教科書の導入の内容２６％ 本編４６％～７１％（うち最も多かったのは「y」練習用紙） ・ノートを意識して「まとめる」児童は半数程度、「まとめる」学習をしていない児童がノートに書いているのは、ほとんどが教科書の練習問題の解答のみ。 ・多くの児童が場を変えながら一番捗る環境を選んでいった。	
成果	・学年で取り組み、算数少人数で教員がプラス１になることで、ダイナミックに場を使えること、目が行き届くこと、児童同士が交流する選択肢（人）が増えることから、学習環境づくりとして良かった。 ・ＣＤ層で自分に適した学び方を選べる児童、ＢＣ層で環境やツール選びが（教師から見ると）適切でない児童が明らかとなった。 ・授業態度に課題があった児童に、前向きに学習する姿が見られるようになってきた。		課題	・学習方法によって前向きに学習できる児童もいれば、やはり学習の目的を自分でもてないと主体的に学ぶのは難しいのではないかと感じた。 ・左のような良い点もあれば、意図的に分けた学習集団であれば、その集団に適した一斉指導を適宜入れ易い。個別の課題に対してどのような手立てを取るのが効率的か。 ・上記も含めて、短時間の単元のため、単元時間内での修正を効かせづらい。	



時	目標	学習活動	○評価　できたら ☑	ふり返り
3	・x を用いて表された式から、具体的な場面を表すことができる。 p.29	①(x−50)＋60、x×3、x×2+120×2 の式を見て、どんな注文の代金を表しているかを考える。 ②自分の好きな組み合わせで注文したときの代金を表す式をつくる。 ③他者のつくった式を見て、どんな注文をしたのかを考える。	[知技]【ノート】 ○ x を用いて表された式から、具体的な場面を表すことができた。 [思判表]【ノート】 ○ x を用いて表された式から具体的な場面を考えることができ、文字を用いた式の表し方の共通点やきまりについて考えた。	
4	・未知数があっても文字 x を用いると、数量の関係を式に表せることを理解する。 p.30	①底辺の長さが分からないことを確認し、未知数を x として、平行四辺形の面積を求める式に表す。 ②x にあてはまる数の求め方を考える。 ③「ますりん通信」を読み、計算法則などにも文字を用いることができることを知り、文字に親しむ。	[知技]【ノート】 ○ 未知数があっても文字 x を用いると、数量の関係を式に表せることを理解した。	
まとめ　p.31、248　1時間				
5	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。 p.31	①「たしかめよう」に取り組む。	[知技]【ノート】 ○ 問題を解決することができた。 [思判表]【ノート】 ○ 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理した。 [態度]【ノート】 ○ 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりした。	
・[発展] ・巻末 p.248 の「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組む。 ・この学習の解説書を作る。　など ○単元の学習内容を基に文字と式についての理解を深める。				